－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	音楽科研究						
担当教員	奥村　正子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K72470
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	楽譜を読み取る力の基礎を学び、音楽を楽しむ感性を磨く。
授業の概要	小学校学習指導要領「音楽科」の目標を達成するため、その内容について理解する。表現・鑑賞の教材研究、およびＩＣＴを効果的に活用した学びに関する事例の検討を行う。共通教材や長い間親しまれてきた唱歌、わらべ歌などに愛着を持ち、その良さを理解する。発声法の学びを通して自分の声の特徴に気づき、自然で無理のない発声法を探求する。 移動ド唱法でも読譜ができるよう、調性についての理解を深め、変声期の児童への適切な配慮について考察するなど、「音楽科」を担当するために必要な具体的・実践的 な知識と技能を身につける。
到達目標	小学校学習指導要領における音楽科のねらいと内容について理解する。 自身が歌うことや楽器を演奏すること、優れた音楽作品を鑑賞することなどを通して音楽の楽しさを体験し、音楽の構造と表現の関係性に気づくことができる。【知識・理解】 基礎的な楽典について、わかりやすく説明てきるようになる。【知識・理解】 児童の歌唱教材を、曲の良さや特徴に気づいて、さらに明瞭な発音・正確な音程・相応しい発声で歌うことができるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第１回：学習指導要領音楽科の目標と内容 第２回：声でかかわり、声で遊ぶ及び楽典1　（五線譜と鍵盤） 第３回：音を探して、響きを聴く及び楽典2　（リズムと拍子） 第４回：身体と音楽及び楽典３（音階と調） 第５回：特色ある音楽教育の紹介（映像資料の視聴）及び楽典４（和音と伴奏） 第６回：歌唱表現の可能性１（低・中学年）　及ひ 弾き歌い１ 第７回：歌唱表現の可能性２（高学年）　及び　鑑賞１ 第８回：中間発表（声のアンサンブル）及ひ 様々な子ともの楽器の紹介 第９回：　合奏１　（響きと音色）　及び　弾き歌い2 第１０回：合奏２　（構造と表現）　及び　鑑賞2 第１１回：　わらべうた遊びの実習　及び 弾き歌い3 第１２回：声と身体によるパーカッション １　リスムハターンの作成及び　鑑賞３ 第１３回：声と身体によるハーカッション ２　アンサンブルの練習 第１４回：アンサンフル発表（収録）　及び　弾き歌い４ 第１５回：アンサンブル発表の録画視聴による振り返りと全体のまとめ 定期試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内で解説したテキストの箇所についての復習、及び、指定する小学校音楽科の共通教材についての実技練習を合わせて、週に４時間程度の授業外学習が必要である。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点40%、中間試験と発表30%、期末試験30%
履修上の注意	545教室で行うため、上履き（スリッパなど）を用意すること。
教科書	「おんがくのしくみ」　今川恭子　志民一成　音楽之友社　ISBN：978-4-87788-377-5
参考書	文部科学省　小学校学習指導要領　（平成29年3月）978-4491034607 文部科学省　小学校学習指導要領解説　音楽編　（平成29年7月） 笹野恵理子編著『初等音楽科教育（はじめて学ぶ教科教育７）』ミネルヴァ書房、2018年。9784623081608

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	松田　和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73630
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業のテーマ	
授業の概要	
到達目標	
授業計画	
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	
授業方法	
評価基準と評価方法	
履修上の注意	
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教育実習指導						
担当教員	松田　和子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73620
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3～4	単位数	1.0

授業のテーマ	
授業の概要	
到達目標	
授業計画	
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	
授業方法	
評価基準と評価方法	
履修上の注意	
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	教職実践演習（幼・小）						
担当教員	松岡　靖・松田　和子・林　悠子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K74650
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	(1)教職に必要な使命感・責任感・愛情 (2)職務上の社会性や対人関係能力 (3)行き届いた子ども理解や学級・保育経営 (4)保育内容に関する充分な指導力
授業の概要	(概要) 本科目は保育士養成課程と教職課程の完成教育として、大学での学修を総括する時間(3回/15回)と、小グループで分担して実習を振り返り、授業づくりへと展開し教職への準備教育を行う時間(12回/15回)を設定する。小グループでの学習内容は次の四つである。第一に履修カルテや実習記録を活用して、教員の講義と学生の討論を行う。第二に模擬保育・授業についての事例研究を小グループで深める。第三に現場へのフィールドワークを行い、具体的な実践の考察を掘り下げる。第四に模擬保育・授業を学生が交代で実践し、指導のスキルを向上させる。以上の内容を通じて、学生一人一人が保育・教育の現場で働くための実践的な対応力を伸ばす。 (オムニバス方式／全15回) （松岡 靖／3回　2クラス合同で実施） 最初に入学時から4年次前期まで更新してきた履修カルテの内容を確認し、教育におけるPDCAサイクルのあり方と、学修におけるポートフォリオの活用について解説する。 （林 悠子／6回） 実践事例についてグループごとに研究を深め、事前・事後指導を含めたフィールドワークで保育現場を見学し、これまでの省察を活かした指導案で模擬保育を実践する。 （松田　和子／6回） 実践事例についてグループごとに研究を深め、事前・事後指導を含めたフィールドワークで保育現場を見学し、これまでの省察を活かした指導案で模擬保育を実践する。
到達目標	教員に不可欠な資質や能力と照らし合わせ、学生が自らの課題について考察し、実践的指導力を高め、教員生活を円滑にスタートできることを目標とする。 到達目標 １.教職・保育士養成課程の履修全体を、学生が実習経験を踏まえつつ総括できる【態度・志向性】。 ２.教育者・保育者に必要な資質・能力に照らし、学生が自らの課題を省察できる【汎用的技能】。 ３.実践的指導力を高めることで、学生が教育者・保育者として順調に出発できる【態度・志向性】。
授業計画	第１回　教職課程履修カルテ：教育者の資質・能力（担当：松岡） 第２回　教育のPDCAサイクル：実習記録での評価と課題（担当：松岡） 第３回　教育のポートフォリオ：教職課程における役割（担当：松岡） 第４回　フィールドワークの事前指導（担当：林）※コロナ禍によりフィールドワーク実施不可能な場合はゲストスピーカーを招聘する 第５回　フィールドワーク：保育・幼児教育現場の参観（担当：林） 第６回　フィールドワークの事後指導（担当：林） 第７回　模擬保育(1)：指導計画の作成（担当：林） 第８回　模擬保育(2)：模擬保育の実践（担当：林） 第９回　実践事例研究(1)：PDCAサイクルと教育者の資質（担当：林） 第１０回　実践事例研究(2)：保育・幼児教育現場における組織論（担当：松田） 第１１回　実践事例研究(3)：乳幼児理解から保育経営まで（担当：松田） 第１２回　模擬保育(3)：指導計画の作成（担当：松田） 第１３回　模擬保育(4)：指導計画の改善（担当：松田） 第１４回　模擬保育(5)：模擬授業の実践（担当：松田） 第１５回　全体総括（担当：松田）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	１.授業の前に教職課程履修カルテを完成させておく（学習時間10時間）。 ２.自らの保育・教育実習記録を読み直して考察する（学習時間20時間）。 ３.事例研究を踏まえて指導案を準備し練習しておく（学習時間30時間）。
授業方法	１.履修カルテ記入は反転学習で完成させる。 ２.フィールドワークで現場の考察を深める。 ３.模擬保育はグループワークで行う。
評価基準と評価方法	１. 教育者としての資質・能力を担当教員が連携して評価する。 ２. 授業での提出課題50%、模擬保育での発表内容50%。
履修上の注意	１.最初の授業に履修カルテを記入し持参すること。 ２.フィールドワークの日時と場所に注意すること。 ３.12月上旬土曜に行う補講２コマに注意すること。 ４.2/3以上の出席に満たない場合は評価対象外とする。

教科書	履修カルテや実習記録などを使用する。
参考書	適宜配付する。

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	子どもの保健II						
担当教員	垂髪　あかり					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K74280
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	保育士として子どもの心とからだの健康および安全管理を担うという自覚を持ち，そのための保健的専門知識や技術・方法を実践的に身につける。
授業の概要	子どもの保健に関する基本知識を，関連するガイドラインや近年のデータ，社会問題等と照らし合わせながら自らの問題に引き寄せて探求できるよう演習を中心に授業を展開していく。保健的観点からみた望ましい保育環境，保育における健康および安全の管理，保育場面で出会う子どもの体調不良や感染症への対応について調べ学習やグループワーク，発表を交えながら演習していく。保育における保健的対応として３歳児未満への対応，障害のある子ども，虐待を疑われるような子ども、アレルギー疾患や慢性疾患のある子どもへの支援等について学修できるようにする。また，個別の配慮の必要な子どもへの対応，保育における応急手当について，ケーススタディや演習を行いながら支援のスキルを身につけられるようにする。さらには，健康と安全への取り組みについて，職員間の連携，家庭，専門機関，地域関係機関との連携について，保育所や幼稚園での取り組み，自治体での取り組み等実践事例を交えながら具体的に学修し，保育者としての実践力を養えるよう図っていく。
到達目標	１．保健的な観点を踏まえた保育環境や援助の仕方について理解し説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 ２．関連するガイドラインや近年のデータ，保育現場の現状と課題について理解し説明できる（知識・理解／汎用性技能） ３．子どもの体調不良等における適切な対応について，自らが保育現場に立ったときをイメージして具体的に理解し説明できる（知識・理解／汎用性技能） ４．屋内外における望ましい保育環境と安全対策について理解し説明できる（知識・理解／汎用性技能）。 ５．子どもの心とからだの健康づくりを，保育者として組織することを理解できる（知識・理解）。
授業計画	第１回　導入　望ましい保育環境と保育現場での衛生管理 第２回　子どもの健康と安全管理 第３回　子どもの体調不良等に対する適切な対応①「子どもの主な症状への対応と薬」 第４回　子どもの体調不良等に対する適切な対応②「応急処置」 第５回　子どもの体調不良等に対する適切な対応②「救急処置と救急蘇生法」 第６回　感染症対策（レポートＡ） 第７回　保育における保健的対応①「３歳児未満への対応―だっこ、おむつ替え」 第８回　保育における保健的対応②「３歳児未満への対応―沐浴デモンストレーション」 第９回　保育における保健的対応③「３歳児未満への対応―沐浴演習」 第１０回　保育における保健的対応④ 「個別の配慮を要する子どもへの対応―アレルギー，慢性疾患」 第１１回　保育における保健的対応⑤ 「個別の配慮を要する子どもへの対応―障害のある子ども」（レポートB） 第１２回　健康，安全への取り組み①「職員の連携と組織的取り組み」 第１３回　健康，安全への取り組み②「母子保健に関する法律と自治体の取り組み」 第１４回　健康，安全への取り組み③「家庭，専門機関，地域の関係機関等との連携」 第１５回　まとめとグループ発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業に関連するトピックやキーワードについて、授業中に指定した方法で下調べをし、manaba入力またはワークシートに記入した上で授業に参加する。（２時間） 授業後学習：授業内に指示したテーマ、課題について報告文を作成し、manabaに入力する。授業で取り上げた内容の要点や重点箇所を確認、整理し、確認テストを実施する。指定された期間にレポートや発表資料を作成する（２時間）
授業方法	演習と講義、ディスカッション、グループワーク
評価基準と評価方法	①レポート４０％ ②平常点（授業各回のリアクションペーパーへの取り組み）３０％ ③グループワーク，ペアワーク，発表，演習での取り組み３０％ 評価は下記の基準をもとに実施する。 １００％〜９０％ 問題を多角的に検討でき、適切な解を求めることができる。 ８９％〜８０％ 授業で学んだことを自分の言葉で説明できる。 ７９％〜７０％ 授業で学んだことを概ね説明できる。 ６９％〜６０％ 知識・理解が十分とはいえない箇所が見受けられる。
履修上の注意	出席回数が開講日数の２/３に満たないものは、原則単位認定を行わない。 毎回の提出物、レポートの提出期限は守ること。 演習の多い授業であるので、積極的な態度で参加すること。
教科書	『授業で現場で役に立つ! 子どもの健康と安全演習ノート　改訂第2版』 診断と治療社、ISBN:9784787825322

参考書	・『保育者のための　わかりやすい　子どもの保健』　飯島一誠監修、日本小児医事出版社、978-4-88924-264-5 ・『子どもの保健：健康と安全（乳幼児教育・保育シリーズ）』岩田力、細井香、光生館、978-4332702016 ・『子どもと一緒にすぐできる! 感染症対策サポート・ブック（ひろばブックス)』藤井祐子監修、メイト、978-4896224375 ・『保育救命 - 保育者のための安心安全ガイド - （ひろばブックス)』遠藤登、メイト、978-4896224122 ・『改訂版 今日から役立つ保育園の保健のしごと』東社協保育士会保健部会、 赤ちゃんとママ社、改訂版、978-4870141346 ・『「明日から」すぐ使える保育園の健康教育』　『保育園の健康教育』編集委員会、赤ちゃんとママ社、978-4870141384

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	障害児保育						
担当教員	谷川　弘治					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K72210
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	障害のある子どもと家族が、安定した生活の中で成長・発達していけるような保育を構成していくための考え方と方法を学ぶ。【BYOD対象科目】
授業の概要	障害のある子どもの保育は、子どもの状態に応じた保育によって生活に適応し、発達が促進されるよう個別のかかわりを含めた取り組みが必要となる。また、一緒に生活する子どもたちと共に発達していけるような配慮が必要となる。そのため、家族や専門機関との連携を行っていく必要がある。本講義では、これら障害児保育の基本課題を踏まえ、保育所において出会うことのある代表的な障害の基本的理解と合理的配慮を深めると共に、日々の保育実践の展開の方法を学ぶことから始める。その上で、保護者の支援、きょうだいの支援に保育士としてどのようにかかわるかについて、検討を進めていきたい。
到達目標	障害のある子どもと家族が抱えがちな生活のし辛さを理解し、どのような配慮が求められるかについて説明できる。【知識・理解】 ② 個々の子どもと家族の状況を把握し、個別の支援を含む適切な保育を保護者や関係者と共に構成し，展開していく方法を説明できる。【汎用的技能】 ③ 障害のある子どもの保護者は、保育士にとって共に子どもの生活を支え、発達を促進するパートナーであると共に、支えられるべき存在でもあることを理解し、保護者が子育てに自信をもつことができるような支援の進め方を説明できる。【知識・理解】【汎用的技能】 ④ 障害のある子どものきょうだいの支援について関心をもち、保育士としてできることを検討できる。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	第１回 オリエンテーション 障害のある子どもと保育（講義） ＊キーワード：共生社会，合理的配慮，インクルーシブ保育，個別保育，ほか 第２回 発達の個人差と偏り（講義） 第３回〜第５回： 障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する（講義，ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ） ＊キーワード：視覚障害，聴覚障害，肢体不自由，知的障害，発達障害，病弱・身体虚弱，ほか 第3回　障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する（講義） 第4回　障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ資料作成）PC必携 第5回　障害のある子どもと家族の生活のし辛さとニーズを理解する（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ）PC必携 第６回〜第１０回 支援方法を理解する（講義，ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ） ＊キーワード：心の支援，発達論による支援，行動への支援，環境調整による支援， 家族及び周囲の人の連携による支援，感覚過敏と鈍感，遊び 第6回　支援方法を理解する（講義）①心の支援，発達論による支援，行動への支援 第7回　支援方法を理解する（講義）②環境調整による支援，家族及び周囲の人の連携による支援 第8回　支援方法を理解する（講義）③感覚過敏と鈍感，ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ資料作成　PC必携 第9回　支援方法を理解する（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ）①ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ（ⅰ）　PC必携 第10回　支援方法を理解する（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ）②ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ（ⅱ）及びまとめ　PC必携 第１１回〜第１４回 家族の支援，医療・福祉との連携（講義，ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ） 第11回　家族の支援，医療・福祉との連携（講義）①保護者，きょうだい児の支援，医療・福祉との連携 第12回　家族の支援，医療・福祉との連携（講義）②ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ資料作成　PC必携 第13回　家族の支援，医療・福祉との連携（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ）①ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ（ⅰ）　PC必携 第14回　家族の支援，医療・福祉との連携（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝとﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ）②ﾃｰﾏ別ｸﾞﾙｰﾌﾟ（ⅱ）　PC必携 第１５回 インクルーシブ保育の展望（講義） 定期試験　PC必携

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業内で終わらないつぎの作業を行う，（学修時間２７０分） ①講義内容の理解を深めるための事前，事後の学修 　講義内容は動画をマナバから視聴できるようにする ②プレゼンテーション資料の作成と練習 ③プレゼンテーションとディスカッションの振り返り ④レポートの作成 ⑤試験のための準備
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 講義，プレゼンテーションとディスカッションを組み合わせる。 第３回から第14回の進め方は下記の通りとする。 ①3～4 名の任意のグループを作る。 ②基本となる知識や技術に関する講義（テキストに基づく） ③プレゼンテーション資料の作成と調整（授業内で完成しない場合は，授業時間外を利用する） ④プレゼンテーションとディスカッションの実施 ⑤振り返り
評価基準と評価方法	プレゼンテーション資料作成６０％ プレゼンテーションとディスカッション実施９％ プレゼンテーションとディスカッションの振り返り９％ 試験・レポート２２％
履修上の注意	＜連絡＞ ・課題提示を含む各種連絡はマナバのコースニュース，レポート欄を通して行う。 ・学生との個別のやりとりは個別指導コレクションを用いる。 ＜資料配付＞ ・授業資料は授業時に紙媒体で配付するが，データはマナバのコースコンテンツに掲示する。 ・講義やプレゼンテーションの記録動画をYouTubeに掲示するが，リンクをマナバのコースコンテンツに掲示する。 ＜欠席＞ ･資料類は適宜，出席者に配付する。欠席した場合は教員研究室にて受け取るか，つぎの授業回で受け取る。 ･学外実習による欠席及び要配慮願いのある欠席の際は，事後に，次のように対応する。状況によって個別に相談すること。 　①テキストと保存された動画の該当箇所を参考にして感想・意見・質問を個別指導コレクション欄から提出する。 　②プレゼンテーション資料作成日に欠席した場合は，個人でプレゼンテーション資料を作成して，個別指導コレクションから提出する。 　③その他提出を要するものは，それぞれ同様に提出する。 ･授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末テストの受験資格を失うものとする。 ＜理解を確実なものとするために＞ ･授業内容の理解のためには，ボランティア活動等で障害のある子どもと接する機会を設けることが望ましい。ボランティア等が難しい場合は，図書館にあるDVDを視聴するなど，経験を補う。
教科書	『障害児保育ワークブック』、星山麻木（編）、萌文書林、978-4-89347-328-8
参考書	・『障害のある子の支援計画作成事例集　発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』、日本相談支援専門員協会（編）、中央法規、978-4-8058-5292-7 ・『基礎から学ぶ障害児保育』、小川英彦（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-07991-9 ・『障害児保育』、第2 版、鯨岡峻（編）、ミネルヴァ書房、978-4-623-06549-3 ・『保育者のためのテキスト 障害児保育』、近藤直子・白石正久・中村尚子（編）、全障研出版部、978-4-88134-125-4 ・『改訂　医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-7050-9 ・『子ども理解からはじめる感覚統合遊び　保育者と作業療法士のコラボレーション』、高畑脩平・萩原広道・田中佳子・大久保めぐみ（編著）、クリエイツかもがわ、978-4-86342-260-5 C0037 ・『運動の不器用さがある子どもへのアプローチ　作業療法士が考えるＤＣＤ（発達性協調運動症）』、東恩納拓哉、クリエイツかもがわ、978-4-86342-333-6 C0037 ・『いちばんはじまりの本　あかちゃんをむかえる前から読む発達レシピ』、井川典克（監修）、クリエイツかもがわ，978-4-86342-322-0 C0077 ・『知的障害・自閉症のある人への行動障害支援に役立つアイデア集65例』，志賀利一（監修）、中央法規出版，978-4805881545 ・『科学から理解する自閉スペクトラム症の感覚世界』、井手正和、金子書房，978-4760826858

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	生活科研究						
担当教員	秋山　麗子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K72460
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生活科の創設の背景や歴史的な変遷、意図やねらい及び内容について学ぶ。
授業の概要	小学校に入学した子どもたちに対して、小１プロブレムのことが問題にされている。本来は、この問題・課題を解決するために生活科が創設されている。 また、生活科のような学習が、歴史的に何度か行われており、それらを学びながら、保育所・幼稚園での保育・教育と小学校低学年教育とを連携するとともに、遊びを取り入れた学習を行うなど小学校への円滑な移行が図られるように、小学校入門期の第１、２学年における生活科教育のあり方やカリキュラム構成のあり方などを学んでいく。
到達目標	生活科の趣旨やねらい、特徴並びに児童中心主義的な教育の歴史的な変遷や在り方などについて理解する【知識・理解】自分なりに生活科の授業観・学習観をもつことができる。幼児教育と初等教育の接続として 生活科を理解する。【汎用的技能】
授業計画	第　１回　　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第　２回　　生活科学習の目標と内容 第　３回　　生活科の基礎研究としての大正自由主義教育と学習指導要領の変遷［PC必携］ 第　４回　　生活科の創設：その背景や意図、ねらい 第　５回　　生活科の特質：教科学習、合科的な学習、総合的な学習との違い 第　６回　　生活科における体験活動［PC必携］ 第　７回　　低学年期の望ましい教育や学習、生活科教育目標 第　８回　　生活科の内容①：第１、２学年における内容構成・留意事項［PC必携］ 第　９回　　生活科の内容②：生活科の単元と年間指導計画［PC必携］ 第１０回　　生活科の内容③：スタートカリキュラムと生活科学習［PC必携］ 第１１回　　生活科における教師の役割：指導と支援の違い、学習場面での教師の働きかけ［PC必携］ 第１２回　　生活科のカリキュラム構成：具体的な学習の流れ及び学習の実際［PC必携］ 第１３回　　生活科における評価：カリキュラム、学習指導、子どもの変容［PC必携］ 第１４回　　小学校第３学年以上への円滑な移行：社会科や理科、他教科等への移行 第１５回　　まとめ：望ましい生活科教育・授業のあり方の総括及びレポート提出
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：テキストや参考文献に当たり、授業内容に合わせたキーワードについての予習を行うこと（学習時間：２時間） 授業後学習：生活科の教材となりうる自然や社会の様々な事象について目を向け調査研究をする。（学習時間：２時間）
授業方法	・講義：グループによるワークショップやディスカッションを行う。また、生活科の学習内容について、グループまたはペアで調査研究をした結果を踏まえて、解説や講義を行う。 ＜BOYD対象科目＞
評価基準と評価方法	・平常点60%（授業やグループ発表での意欲・関心・態度、小テスト、授業のワークシートの内容や意見・感想など） ・レポート40%（望ましい生活科教育のあり方、授業を受けての意見・感想など） ・意欲は授業への関心や態度、知識は授業での質問や小テスト、適正は授業中の言動や授業後の意見や感想、レポートなどから評価
履修上の注意	・授業で使用したプリントは、各回の出席者のみ配布する。 ・欠席した場合は、松蔭マナバのコンテンツに配信した授業資料をダウンロードして自習する。
教科書	文部科学省　小学校新学習指導要領の展開　生活編（平成29年10月）978-4-18-328214-9
参考書	文部科学省　小学校学習指導要領（平成29年度告示）　（平成29年3月） 文部科学省　小学校学習指導要領解説（平成29年度告示）　生活編　（平成29年7月）978-4491034645 文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター　発達や学びをつなぐスタートカリキュラム―スタートカリキュラム導入・実践の手引き（2018年4月）学事出版

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	相談援助						
担当教員	中井　和弥					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73260
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育士による子育て支援の実践を深める。
授業の概要	本授業は保育士養成課程を構成する教科の一つである。保育士は保護者が抱える子育ての問題や課題に対して適切な支援を行うことが児童福祉法第18条の4にも明記されている。よって，本授業では現代の保育士に求められる子育て支援の知識・技術について教授する。具体的には，一般社団法人 全国保育士養成協議会が公開する資料「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について」に基づき，「保育士の行う子育て支援の特性」と「保育士の行う子育て支援の展開」，「保育士の行う子育て支援とその実際（内容・方法・技術）」という3つの内容について教授する。
到達目標	（１）保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について，その特性と展開を具体的に説明できる。【知識・理解】 （２）保育士の行う子育て支援について，様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例とを通して具体的に説明できる。【汎用的技能】
授業計画	第１回　　子どもの保育とともに行う保護者の支援 第２回　　日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 第３回　　保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 第４回　　子ども及び保護者の状況・状態の把握 第５回　　支援の計画と環境の構成 第６回　　支援の実践・記録・評価・カンファレンス 第７回　　職員間の連携・協働 第８回　　社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 第９回　　保育所等における支援 第１０回　　地域の子育て家庭に対する支援 第１１回　　障害のある子ども及びその家庭に対する支援 第１２回　　特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 第１３回　　子ども虐待の予防と対応 第１４回　　要保護児童等の家庭に対する支援 第１５回　　多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学修：テキストの該当箇所は事前に目を通しておくこと（学習時間2時間） 事後学修：準備から授業までの流れの中で気づいたこと，確認すべき事項，不明な点などをリストアップしておくことが望ましい。不明な点は，自ら調べる，友人に尋ねる，教員に尋ねるなどの手段で解決しておくこと。（学習時間：2時間）
授業方法	演習：講義とグループワーク（グループディスカッション，発表，ロールプレイなど）を組み合わせて進行する。
評価基準と評価方法	・授業内・外課題：60% ・学期末レポート：40%
履修上の注意	１．履修者には，グループワークに積極的に取り組むことを求める。 ２．実習で欠席する学生のためにグループワーク等を動画に保存して，履修者が視聴できるようにすることがある。
教科書	『子育て支援』，西村重稀・青井夕貴（編著），中央法規，978-4805857991
参考書	『子育て支援』小橋明子（監修），中山書店，ISBN：978-4-521-74832-0 『保育所保育指針解説』，厚生労働省（著），フレーベル館，　9784577814482

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	特別支援教育入門						
担当教員	金丸　彰寿					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	障害，文化的差異や貧困など，多様な特別な教育的ニーズのある子どもの特性，発達や生活の様子等の実態及び，それらを踏まえた支援対応の基本的知識を学ぶ。
授業の概要	多様な人々を包摂する共生社会の創造に向けて，次世代の担い手である障害のある子どもの全体像をトータルに理解するため，障害の階層性や環境との相互作用などの考え方を有する国際的な障害概念や，インクルーシブ教育に基づく特別支援教育の意義について概説する。それを踏まえて，特別支援教育の教育課程，通級による指導や自立活動の意義，特別支援教育コーディネーターを中心とした連携，視覚障害，聴覚障害，知的障害（軽度知的障害も含む），肢体不自由，病弱，や発達障害などの特性や支援方法の基礎的事項を講義する。加えて外国人児童や貧困問題などの特別な教育的ニーズのある子どもの支援の基礎的事項に言及する。理解を深めるため，毎回ミニレポートを課す。各回の授業については、特別支援教育の歴史・思想の事項、特別支援教育の理念、社会的・制度的・経営的事項を中心に扱う。
到達目標	(1) 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の理解について，①インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。②発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の心身の発達，心理的特性及び学習の過程を理解している。③視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児，児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。【知識・理解】 (2) 特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒の教育課程及び支援の方法について，①発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。②「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。③特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ，個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。④特別支援教育コーディネーター，関係機関や家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。【汎用的技能】 (3) 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の把握や支援について，①母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児，児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。【汎用的技能】
授業計画	第１回：国際的な障害概念と特別支援教育 第２回：特別な教育的ニーズと特別支援教育 第３回：インクルーシブ教育システムに位置づく特別支援教育の理念と目的 第４回：障害のある子どもの理解と支援①「視覚障害と聴覚障害を中心に」 第５回：障害のある子どもの理解と支援②「発達障害を中心に」 第６回：障害のある子どもの理解と支援③「知的障害（軽度知的障害も含む）を中心に 第７回：障害のある子どもの理解と支援④「肢体不自由と重度重複障害を中心に」 第８回：障害のある子どもの理解と支援⑤「病弱・身体虚弱を中心に」 第９回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援①「外国人児童生徒を中心に」 第１０回：特別な教育的ニーズのある子どもの理解と支援②「貧困問題を中心に」 第１１回：障害のある子どものライフステージに応じた教育支援計画 第１２回：特別支援教育の教育課程①「教育課程の構造と指導計画」 第１３回：特別支援教育の教育課程②「通級による指導を中心に」 第１４回：特別支援教育の教育課程③「自立活動を中心に」 第１５回：特別支援教育における支援体制と連携
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、疑問点や分からない点を整理して授業に臨む（学習時間：2時間）。 授業後学習：各回の授業内容の要点とそれに対する自分の意見をミニレポートとしてまとめて提出する（学習時間：2時間）。
授業方法	講義：各回のテーマに関するディスカッションやグループ（ペア）ワークを行う。グループ（ペア）ワークの報告を踏まえて、重要事項について解説・講義を行う。
評価基準と評価方法	毎回のミニレポート（30%）、定期レポート（70%）
履修上の注意	１．教育学部生は全員必修であるため、必ず受講すること。 ２．５回以上、欠席した場合は、受験資格を失う。 ３．ミニレポートは出席確認を兼ねるため、ミニレポートを確認できなければ出席したと見なさないので要注意。 ４．レポートの提出にあたって特別な配慮が必要な場合は、前もって相談に来ること。

教科書	特に指定しない。授業担当者が、資料を準備する。
参考書	・『キーワードブック特別支援教育――インクルーシブ教育時代の障害児教育』, 玉村公二彦・清水貞夫・ 黒田学・向井啓二編クリエイツかもがわ, ISBN978-4-86342-155-4 ・『日本型インクルーシブ教育への道—中教審報告のインパクト—』, 渡部昭男編, 三学出版, ISBN978-4-903520-70-4

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育者論						
担当教員	鎮　朋子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K72160
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「保育者に求められる専門性とは何か」について、制度や職務内容の理解を通して保育者のあるべき姿を学ぶ。
授業の概要	本講義は、学生一人一人がもつ「保育するとはどういうことか」という問いを出発点としながら、まず、現代日本における保育者の制度的位置づけを確認する。そのうえで、現在に至るまでの保育者の位置づけの変遷について学ぶ。最後に、現代の保育士がどのような課題を抱えているのか、保育行政に沿ってどのように変化しつつあるのか、を踏まえて、将来に向けて保育にどのような専門性が求められているのか、どのようなミッションが課されているのか、について展望する。
到達目標	【到達目標】 ・保育者の役割と倫理について理解することができる【知識・理解】 ・保育者の専門性と協働について理解することができる【知識・理解】 ・保育者の専門職的成長について議論できる【態度・志向性】
授業計画	第１回　はじめに：授業の到達目標、進め方、成績評価方法について　保育者とは 第２回　保育者の役割と倫理（１）保育者の役割 第３回　保育者の役割と倫理（２）保育者の倫理 第４回　保育者の職務内容（１）保育者の制度的位置づけ 第５回　保育者の職務内容（２）保育者の責任と義務 第６回　保育者の専門性（１）子どもとともに生きる 第７回　保育者の専門性（２）保護者支援・家庭支援 第８回　保育者の専門性（３）知識・技術及び判断 第９回　保育者の専門性（４）保育課程による保育の展開と自己評価 第１０回　保育者の協働（１）：保育者同士の協働 第１１回　保育者の協働（２）：保護者及び地域社会との協働 第１２回　保育者の協働（３）：専門職間及び専門機関との連携 第１３回　保育者の専門職的成長（１）：専門性向上と組織的取組 第１４回　保育者の専門職的成長（２）：生涯発達とキャリア形成 第１５回　おわりに：まとめ、到達度の確認
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業準備としてテキスト内容の確認と予習（2時間）、授業後に内容の復習と授業内容に関する意見交換を友人と行うことが望ましい（2時間）。
授業方法	授業は基本的に講義形式で行う。保育の諸課題について、小グループで検討、発表する場合もある。
評価基準と評価方法	定期試験およびレポート課題により、総合的に評価する。 評価の割合は、定期試験70%、レポート課題30%とする。
履修上の注意	欠席等については学内の規定に準ずる。そのほかの注意点については授業内で指示する。
教科書	『保育者論―子どものかたわらに』　小川圭子編　（株）みらい　978-4860154127 『保育所保育指針解説（平成30年3月）』（厚生労働省、フレーベル館）　978-4577814482
参考書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）』 （内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館） 『幼稚園教育要領解説（平成30年3月）』（文部科学省、フレーベル館）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（施設）						
担当教員	大西　能成					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73560
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	実習を通じ、児童福祉施設の社会的役割と施設職員としての保育士の果たす役割を実践的に学ぶ
授業の概要	児童福祉施設で実際に子どもや利用者と生活を共にする中で、①施設の役割と機能、②子どもの理解、③施設における子どもの生活と環境、④計画と記録、⑤専門職としての保育士の役割と倫理を実践的に学ぶ
到達目標	１　施設の役割や機能を具体的に理解することができる【汎用性技能】 ２　観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深めることができる【汎用性技能】 ３　既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解することができる【態度・志向性】 ４　保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解することができる【汎用性技能】 ５　保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解することができる【態度・志向性】
授業計画	実習（10日間）の標準的な内容は次のとおり 〇　事前学習 施設でのオリエンテーション 〇　観察実習 実習施設の組織・種類・特性の理解、職員の職種（専門家）の働きと役割・連携の取り方、子どもや利用者のニーズ、施設の一日の流れなどを理解する 〇　参加実習 観察に加え、部分的に職員の指導のもとに、子どもや利用者へのサポートやかかわりを実体験し理解する また、職員の環境整備や教材準備等を補助するとともに、支援計画を理解する 〇　指導（部分）実習 実習のまとめとして、あらかじめ指導職員の助言等を得ながら指導計画を策定し、実践する 〇　事後指導 自己評価・反省、感想・レポートの提出、実習報告会への出席、実習記録の提出、自己課題の達成度確認等
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修 ・　「保育実習指導Ⅰ」をはじめ既習教科目のうち実習に密接に関連する項目、内容等について振り返りを行う＜３時間＞ ・　児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等を確認する＜１時間＞ ・　実習施設について、場所、施設規模、職員体制、施設の方針などの基礎知識をあらかじめ身に着け、理解を深める＜１時間＞ 授業後学修 ・　実習期間中毎日振り返りを行い、反省考察を記録する＜３時間＞ その他 ・　常に児童福祉施設や現在の子どもたちを取り巻く環境、子どもたちの育ちの様子等に関する情報を収集する＜２時間＞ ・　児童福祉施設（保育所以外）や地域子ども・子育て支援事業の見学、ボランティア活動等に積極的に参加することが望ましい
授業方法	実習、訪問指導
評価基準と評価方法	実習完了　３５％ 実習施設の評価　　４５％ 実習記録等　　２０％
履修上の注意	・　実習中の無断での欠席、遅刻、早退をしないこと ・　実習生の立場を意識し、終始、積極的、誠実な態度で臨むこと ・　施設の設置目的等を踏まえ、特に守秘義務の遵守など倫理観に基づく姿勢を常に意識すること ・　指導者の助言を真摯に受け止め、子どもや利用者の立場を理解して共感的態度で臨むこと ・　実習施設及び大学への提出物については、期限を厳守すること
教科書	なし
参考書	「実習の手引き」（神戸松蔭女子学院大学） 「保育実習参加のための手続きガイド」（神戸松蔭女子学院大学教職支援センター）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習Ⅰ（保育所）						
担当教員	林　悠子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73550
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	保育所における実習への参加
授業の概要	保育所における実習に参加し、保育所生活の特性、子どもの発達過程を踏まえた子どもへの支援、保育士の業務への補助を通して【汎用的技能】、保育士に求められる基礎的な専門的知識・技能を習得する【態度・志向性】。
到達目標	・保育所の社会的機能を具体的に理解する。（知識・理解） ・保育所生活の特性を理解する。（知識・理解） ・子どもの発達過程を理解する。（知識・理解） ・子どもの発達を踏まえた個別的・集団的な支援ができる。（汎用的技能） ・保育士の職務の具体的内容を体得する。　（態度・志向性）
授業計画	保育実習Ⅰ(10日間)の、標準的な内容は以下のとおりである。 ・事前学習：保育所でのオリエンテーション(学外オリエンテーション)を受ける ・見学・観察実習 ・参加(部分)実習 ・実習記録(日誌)の作成、指導案の作成 ・事後学習：各自の取り組みを自己評価したうえで、レポートを作成する
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・実習に向けて教材研究および子どもと関わる機会を積極的に設けること（毎週2時間） ・保育所等でのボランティア活動へ積極的に参加する。 ・実習中に必要とされる保育技能(手遊び、歌、絵本、紙芝居等)を、日頃から習得する。 ・保育所という社会との出会いに備えて、社会人としての基礎的なマナー、常識を体得する。 ・学生同士での実践演習
授業方法	実習
評価基準と評価方法	・実習完了の基礎点　　35% ・実習園の評価　　45% ・実習記録・実習レポート　20%
履修上の注意	・実習中の無断での欠席、遅刻、早退は厳禁する。 ・実習時間の確保には、各自で十分に留意する。 ・実習園の園の方針を理解し、それに応じた実習姿勢をとる。 ・実習園および大学への提出物は提出期限を厳守すること。
教科書	・『実習の手引き』 ・『保育実習参加のための手続きガイド』
参考書	・『月刊保育とカリキュラム』ひかりのくに

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習III（施設）						
担当教員	大西　能成					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73600
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	「保育実習Ⅰ（施設）」の経験、「保育実習指導Ⅲ」での知識等を生かし、実習を通じて児童福祉施設の保育士のあるべき姿を総合的に学ぶ
授業の概要	保育実習I（施設）等の経験を踏まえ、より具体的な実践を通じて、①児童福祉施設（保育所以外）の役割と機能、②施設における支援の実際、③保育士の多様な業務と職業倫理、④保育士としての自己課題の明確化を発展的に学ぶ
到達目標	１　既習の教科目や保育実習の経験等を踏まえ、児童福祉施設（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解することができる【汎用的技能】 ２　家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得できる【態度・志向性】 ３　保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解することができる【汎用的技能】 ４　実習における自己の課題を理解することができる【態度・志向性】
授業計画	施設において10日間実習を行う
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修 ・　「保育実習指導Ⅲ」をはじめ既習教科目のうち実習に密接に関連する項目、内容等について振り返りを行う＜３時間＞ ・　児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等を確認する＜１時間＞ ・　実習施設について、場所、施設規模、職員体制、施設の方針などの基礎知識をあらかじめ身に着け、理解を深める＜１時間＞ 授業後学修 ・　実習期間中毎日振り返りを行い、反省考察を記録する＜３時間＞ その他 ・　常に児童福祉施設や現在の子どもたちを取り巻く環境、子どもたちの育ちの様子等に関する情報を収集する＜２時間＞ ・　児童福祉施設（保育所以外）や地域子ども・子育て支援事業の見学、ボランティア活動等に積極的に参加することが望ましい
授業方法	実習、訪問指導
評価基準と評価方法	実習完了　３５％ 実習施設の評価　　４５％ 実習記録等　　２０％
履修上の注意	・　原則として、「保育実習Ⅰ（施設）」の実習期間を満了した場合に、履修可とする ・　実習中の無断での欠席、遅刻、早退をしないこと ・　実習生の立場を意識し、終始、積極的、誠実な態度で臨むこと ・　施設の設置目的等を踏まえ、特に守秘義務の遵守など倫理観に基づく姿勢を常に意識すること ・　指導者の助言を真摯に受け止め、子どもや利用者の立場を理解して共感的態度で臨むこと ・　実習施設及び大学への提出物については、期限を厳守すること
教科書	なし
参考書	「実習の手引き」（神戸松蔭女子学院大学） 「保育実習参加のための手続きガイド」（神戸松蔭女子学院大学教職支援センター）

－　　－　　－

科目区分	子ども発達学科専門教育科目						
科目名	保育実習指導III						
担当教員	大西　能成					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	K73590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	「保育実習Ⅰ（施設）」を踏まえ、施設実習に必要な知識・技術を総合的に学ぶ
授業の概要	「保育実習Ⅲ」に臨むにあたって、児童福祉施設に求められている役割と機能、保育士に求められている専門的な知識や技術等に関し、高い専門性を修得する 事前指導では特に、①さらなる施設機能の理解、②利用者および家族の理解と支援について理解を深める 事後指導では、実習を振り返り、自己評価と課題の明確化を通じて、施設において保育士として働くことの意義ややりがいについて考える
到達目標	１　保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解することができる【汎用的技能】 ２　実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得できる【態度・志向性】 ３　保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解することができる【汎用的技能】 ４　保育士の専門性と職業倫理について理解することができる【汎用的技能】 ５　実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にすることができる【態度・志向性】
授業計画	第１回　施設実習の意義及び目的の再確認、保育実習Ⅰの振り返り（１） 第２回　保育実習Ⅰの振り返り（２） 第３回　保育実習による総合的な学び 第４回　保育の実践力の育成 第５回　計画策定と観察、記録、自己評価 第６回　保育士の専門性と職業倫理 第７回　実習の総括と評価（１）実習の総括と自己評価 第８回　実習の総括と評価（２）課題の明確化 ※　授業日程は、松蔭manabaで連絡します
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学修： ・　「保育実習Ⅰ（施設）」で習得したことを振り返り整理する＜２時間＞ ・　既習教科目のうち実習に密接に関連する項目、内容等の振り返りを行う＜３時間＞ ・　児童福祉施設に関する法令、規則、基本となる指針等を確認する＜１時間＞ ・　毎回の授業内容について教科書、参考書等で下調べを行う＜２時間＞ 授業後学修： ・　毎回の授業における感想、質問等について、リアクションペーパーを作成し提出する＜１時間＞ その他： ・　常に児童福祉施設や現在の子どもたちを取り巻く環境、子どもたちの育ちの様子等に関する情報を収集する＜２時間＞ ・　児童福祉施設（保育所以外）や地域子ども・子育て支援事業の見学、ボランティア活動等に積極的に参加することが望ましい
授業方法	講義、演習
評価基準と評価方法	平常点（授業参加姿勢、提出物の提出、期限厳守等）　50% レポート、リアクションペーパー等　　50%
履修上の注意	・　全授業出席が評価の前提条件であること（欠席、遅刻、早退厳禁） ・　「保育実習Ⅲ」の事前事後指導のための科目であり、授業への出席が前提である ・　授業には実習参加への自覚を持って臨むこと
教科書	「実習の手引き」（神戸松蔭女子学院大学） 「保育実習参加のための手続きガイド」（神戸松蔭女子学院大学教職支援センター）
参考書	「保育士をめざす人の福祉施設実習」（第２版） 編集：愛知県保育実習連絡協議会・「福祉施設実習」編集委員会　　みらい　　ISBN 978-4-86015-308-3 五訂「福祉施設実習ハンドブック」 監修：喜多一憲　児玉俊郎　　みらい　　ISBN 978-4-86015-481-3 「より深く理解できる施設実習」-施設種別の計画と記録の書き方 監修：松本峰雄　　萌文書林　　ISBN 978-4-89347-221-2